



新座中だより

令和4年度3月号



〒352-0011 埼玉県新座市野火止二丁目4番1号
電話(048)478-3668 FAX(048)482-0131
新座市立新座中学校

学校教育目標

強く 明るく 考える

姑 息 の 愛

校長 高橋 利明

3年生は、3月15日(水)、いよいよ卒業の日を迎えます。この1年間、3年生は、みんなで協力しながら、全校生徒の先頭になり、各学校行事を引っ張ってきてくれました。そしてそれぞれの取組の中で、一人ひとりが自信と誇りを身に付けてくれたと信じています。中学校生活3年間で学んだこと、気づいたこと、教えてもらったこと、それらが全てこれからの生き方に繋がっていくと信じています。

「卒業」は、新たなスタートでもあります。卒業生が自分の夢に向かって、一步一步、努力を重ね、柔軟に壁を乗り越え、夢を実現していくことを心から期待しています。

残された在校生にとって、24日(金)は、1年を締めくくる大切な修了式です。この1年を振り返り、自分の成長に自信を持つとともに、次の学年に向けて、しっかりと目標を持たせたいと考えています。今年は、桜の蕾もだいぶほころび始めています。生徒たちには、元気にたくましく次の学年へ新しいスタートをきってほしいと思います。

さて、近江聖人と呼ばれた江戸時代の儒学者である中江藤樹は「翁問答」の中で、駄目な育て方の典型として「姑息の愛」をあげています。

「姑息の愛」とは、さしあたりの苦勞をさせず、子どもの願いのままに育てることだそうです。

一見、慈愛のようではありますが、その子は気ままになり、鳥や獣と同じようになると言っています。例えば、夏休みの宿題を子どもが頼みもしないのに、親の方から手伝ったり、全てやってしまったたりなんていうことは、長い目で見れば決して子どものためにはならないのです。

子どもたちは、学年が上がるにつれて、自分の力でできることが確実に増えていきます。その中には、学力や体力とともに人とつながる力、コミュニケーション力もあります。様々な問題に出会ったとき、自分で考え解決できることは生きていく上でとても大切なことです。学校生活や部活動、友だちと遊ぶ中では、小さなぶつかり合いが当然起こってきます。しかし、子どもたち同士で話し合い、折り合いをつけられることが大事で、そういう経験を積み重ねながら、子どもたちは、思考力や判断力がつき、徐々に自立をしていくのだと感じています。子どもたちは大人が考えるより、けっこう逞(たくま)しいものです。子どもたちの力を信じて、時には任せることも大切です。真の愛情を持って、子どもたちを育てていきたいものです。

最後に、今年度も、保護者・地域の皆様にはたいへんお世話になり、ありがとうございました。来年度もご理解とご協力、そしてご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

「凡事徹底」

「自他共栄」

「文武両道」